

劇
35ミリ
白黒／48分

■企画
貯蓄増強中央委員会

スタッフ

■製作
村山英治
■脚本
杉原せつ
■演出
堀内 甲
■撮影
松田忠彦
■照明
鈴木直秀
■音楽
塚原哲夫
■録音
丸山国衛
■編集
沼崎梅子

■出演

中本たみ：荒木道子
中本有子：家田佳子
及川洋二：笈田勝弘
花山さん：田中筆子
吉本秋子：木村俊恵
横山良平：森川公也
横山文子：
 中曽根公子
おばあさん：
 原 ひさ子
氏家理子：
 佐々木孝子
小泉マミ：
 高杉裕三子
 他

文部省選定 厚生省推薦

母1人、娘1人の働く一家と、娘の恋人をめぐる起きる結婚問題が話の中心になっている。養子という古い考え方も生きている一方、年寄りの将来は養老院行きといった考え方が行き渡った時代でもあった。この小さな家族のドラマをとらえて、観る人々に現代の家族の在り方を考えさせ、解決の道を示唆している。



中本有子と及川洋二は、同じビルの中の会社に勤める恋人同士だ。青春を楽しむことでは一致するが、結婚のことになると違ってくる。

有子は、病院の賄い婦をする母たみと2人暮らしだった。有子は現実的で、共稼ぎでも母と同居して洋二と結婚したいと思っていたが、洋二は将来を漠然と2人だけの生活として考えていた。有子は、洋二に母と馴染んでもらいたいと思うが、洋二は細かく気が付く年寄りが苦手で寄りつかない。たみは、洋二が次男なので養子にきてほしいと口にする。有子は恋人と母親との間で苦しんでいた。

たみは職場の同僚の花山に、老後の心細さをもらす。花山は子供はあてにできない、頼るのはお金だと割り切っている。そして2人で養老院の見学に行こうと誘う。

母の隠れた養老院調べを知った有子はショックをうけ、洋二との結婚を諦めようかと親友の秋子に話す。そこへ偶然洋二がきて、養老院行きもいいんじゃないかという。有子は洋二を信頼できなくなり、結婚を諦めようと家出する。家出は、たみにも洋二にも大きなショックを与えた。洋二は雪山へ有子を迎えにいく。たみは子供に頼らず1人で働けるうちは働いていこうと決心する。夜汽車の中で洋二と有子は将来の生活設計を話し合う。たみには近くに住んでもらって、当分は共稼ぎで毎月母の最低の生活費を贈ろう、と。

朝、たみはアパートで雪山から帰ってきた娘と洋二を迎えた。